

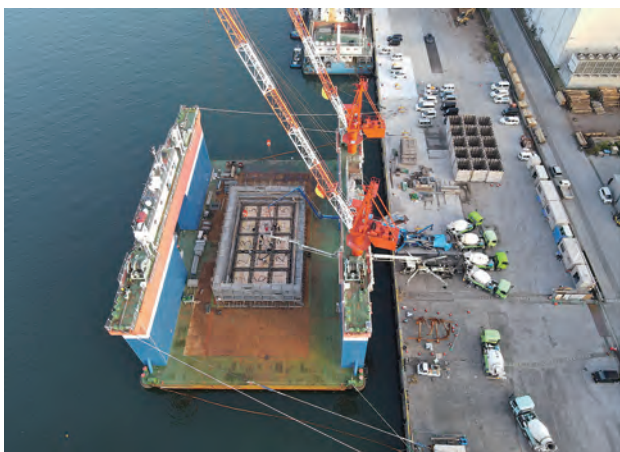


## 厳冬期の海上工事、 計画通りの施工に全力傾注

大旺新洋株式会社  
高知土木本店 港湾土木部 統括所長  
宮本 俊二 さん (みやもと・しゅんじ)

太平洋を望んで立つ坂本龍馬の銅像で有名な桂浜(高知市)の対岸、種崎海岸の東側に位置する「高知新港」で防波堤を築造する工事の統括管理に当たっている。高知県の中央沿岸部、浦戸湾内の各地区に点在していた高知港の物流機能の再編に合わせ、外洋に面した三里地区で1988(昭和63)年から整備が始まった高知新港は、1998(平成10)年に一部供用を開始して以降、これまでに大型コンテナ船やバルク船の接岸が可能なメインバース(耐震強化岸壁)や、2基目のガントリークレーンなどが稼動し、物流・交流拠点である高知港全体の発展を牽引している。

高知港での取扱貨物量の増加を受けて、港湾管理者の高知県は、船舶の航行安全性や荷役作業の効率性の向上を目的として、港内の静穏度を高め



フローティングドックで製作中のケーソン

# 海人

うみひと

## 現場最前線

るための「東第二防波堤」の築造に2018(平成30)年度に着手した。計画延長270mのうち、昨年度までに延長68mが完成し、本年度の工事では新たなケーソンの据え付けによって防波堤を20.4m延伸する計画となっている。大旺新洋は一連の工事に継続して携わっており、現場で陣頭指揮を執っているのが統括所長の宮本さんだ。

港湾工事は施工場所の年間を通じた気象・海象条件の変化に応じて、年度ごとの工事スケジュールが立てられる。太平洋に面した高知港の場合、台風シーズンが終わった11月ごろから翌年3月ごろまでが海上工事の勝負どころとなる。

「北西からの風が吹くと波が収まり、好条件となります。南の風が変わる春までに一区切りをつける工程で施工を進めます」。高知県出身。高知市に本店がある大旺新洋に入社して37年目。瀬戸内海や土佐湾の周辺での工事を数多く手掛け、風を読む力を身に付けてきた。工事が佳境を迎えるころは正に厳冬期と重なることになるが、「現場に出たら、計画通りに安全に施工を進めることだけに全力を傾けている」という。

東第二防波堤の延伸工事は、準備工、構造物撤去工に始まり、グラブ船による床掘りを経て、基礎捨て石の投入、均しへと進む。並行して本体工であるケーソンの製作が、浦戸湾内の木材団地で着々と進行している。ケーソンは長さ20.2m、幅10.9m、高さ8.5mの大きさ。重量は1,275tに及ぶ。フローティングドック(FD)を用いて製作し、完成後にFDを曳航・進水して所定位置に据え付ける。施工のハイライトといえる巨大なケーソンの据え付けは、予定どおり1月10日に無事完了。大旺新洋が掲げる「全社一丸」のスローガンのもと、防波堤築造工事は着々と進行している。

### 工事概要

【工事件名】 高知港改修(重要)工事  
【工事場所】 高知県高知市三里  
【発注者】 高知県  
【請負業者】 大旺新洋・新創JV  
【工期】 2022年8月1日～2023年3月17日